

## アジア原子力協力フォーラム(FNCA) 第25回大臣級会合等の結果報告について

令和7年3月18日  
内閣府原子力政策担当室

(第25回大臣級会合)

1. 開催日時 : 令和6年12月18日(水) 17:00~18:00  
19日(木) 10:30~17:00
2. 開催場所 : 三田共用会議所 国際会議室(ハイブリッド)
3. 主 催 : 内閣府原子力委員会
4. 参加国等 : FNCA加盟国: バングラデシュ※、中国、インドネシア、日本、カザフスタン、韓国※、マレーシア、モンゴル、フィリピン、タイ、ベトナム  
(※:オンライン参加)  
オブザーバー参加: シンガポール  
(参加者一覧:添付2参照)
5. 議 長 : 上坂 充 原子力委員会 委員長
6. 我が国の主な出席者 :  
城内 実 内閣府特命担当大臣(科学技術政策)  
上坂 充 原子力委員会 委員長  
直井 洋介 原子力委員会 委員  
岡田 往子 原子力委員会 委員  
柿田 恭良 内閣府科学技術・イノベーション推進事務局 統括官  
徳増 伸二 内閣府科学技術・イノベーション推進事務局 審議官  
玉田 正男 FNCA日本コーディネーター  
和田 智明 FNCA日本アドバイザー  
坪井 裕 FNCA日本アドバイザー 他
7. 議事次第:添付1参照

## 8. 議事概要:

### (1) セッション1: 開会

上坂原子力委員会委員長の開会宣言の後、城内内閣府特命担当大臣(科学技術政策)が歓迎挨拶を述べた。城内大臣は、参加各国に歓迎の意を伝えるとともに、本年25周年を迎えたFNCA事業が農業、医療など幅広い分野でアジア地域の発展に貢献してきた成果を振り返りながら、我が国が原子力の平和利用の推進を通じて、アジア地域の持続的発展に引き続き貢献していく旨等を発言した。

FNCA加盟国の出席者(オンライン参加を含む)の挨拶・自己紹介の後、本会合のアジェンダ案が了承された。

### (2) セッション2: 基調講演

セッション議長: 上坂委員長の下、マグウッドOECD/NEA事務局長(オンライン)が「原子力エネルギー: アジアにおける経済成長と環境保護への道」をテーマに基調講演を行った。マグウッド事務局長は、2050年のカーボンニュートラル達成に向けた原子力エネルギー、SMR等が果たす役割の重要性や、原子力エネルギーの導入によってもたらされる経済発展やエネルギー安全保障等の恩恵、データベース作成や原子力人材育成等のOECD/NEAの取組、FNCA加盟国らへの期待等を述べた。

### (3) セッション3: 円卓会議

セッション議長: 上坂委員長の下、本会合の主題である「FNCA:これまでの25年と今後の活動」のテーマに沿ってモンゴル、タイ、インドネシアの3か国が、それぞれ各国のこれまでのFNCAに関する取組についてリードスピーチを行った。

### (4) セッション4: FNCA賞授賞式及び記念講演

セッション議長: ニール・レイモンド・ディアス・ギレルモ フィリピン原子力研究所(PNRI)統括科学研究员の下、FNCA賞の受賞者が紹介、表彰された。チーム賞4団体(最優秀チーム賞1団体、優秀チーム賞3団体)、若手研究者奨励賞8名、女性研究者奨励賞8名が対象となり、各受賞チーム・受賞者の研究業績等が紹介された。最優秀チーム賞に選出されたフィリピンの放射線育種プロジェクトのクリストファー・カブソラ フィリピン稲研究所 上級科学研究スペシャリストに上坂委員長から記念品の盾が授与され、同氏はフィリピンの受賞チームを代表し記念講演を行つた。

### (5) セッション5・6: 国別状況報告

セッション議長: エルラン・バティルベコフ カザフスタン国立原子力センター(NNC)総裁 及びイドリス・アリ バングラデシュ原子力委員会(BAEC) 国際部部長兼 IAEA連絡調整官の下、加盟国の代表が、昨今の原子力行政や事業の進捗

状況等について、国別報告を行った。我が国は徳増審議官より、①原子力利用に関する基本的考え方、②原子力・エネルギー政策の方向性、③エネルギー政策の方向性と将来的な発電の在り方、④医療用等ラジオアイソトープ製造・利用推進、⑤原子力・科学分野における人材育成、⑥FNCA25周年記念に関する取組等について報告を行った。

#### (6) セッション7: FNCA活動報告と議論

セッション議長: シャオ・リリ 中国 国家原子能機構 (CAEA) 国際協力部シニアプロジェクトオフィシャル の下、2024年の活動報告と関連する議論が行われた。

- 玉田FNCA日本コーディネーターより、令和6年3月に開催された第24回コーディネーター会合の概要を報告。
- 直井原子力委員より、令和6年3月に開催されたスタディ・パネルの概要を報告。
- 事務局より、一連のFNCA25周年記念行事の実績を報告。
- 事務局より、令和6年12月12日に開催された上級行政官会合の結果等を受け、本大臣級会合において加盟国から特段の異論がなければ、シンガポールのFNCAへの加盟が承諾される旨を説明。シンガポールのFNCAへの加盟が正式に了承され、シンガポールより、各国への感謝と加盟にあたり挨拶が述べられた。
- 事務局より、令和7年の会合スケジュールを報告した。令和7年11月若しくは12月に第26回大臣級会合が日本で開催される予定等が共有された。

#### (7) セッション8: 共同コミュニケーション

セッション議長: カオ・ドン・ヴ ベトナム原子力研究所(VINATOM)ダラット原子力研究所所長 の下、事務局が共同コミュニケーション案を説明した。共同コミュニケーション案には、加盟国における医療用放射性同位元素の製造及び配布における課題と改善の必要性や、本年再開されたFNCA賞受賞チーム・受賞者の今後の更なる活躍への期待、創設25周年を迎えたFNCAが、加盟国の「食と健康」の向上に貢献してきたことの意義の共有や、加盟国が協力して記念行事を開催したことの確認、シンガポールの正式加盟及び同国の各プロジェクト活動参画への歓迎、次世代炉分野の加盟国間の連携協力の必要性の認識等が明記された。会合の場での各国からのコメントを調整、確認後、文書が取りまとめられた(添付3(英文)及び添付4(和文(仮訳))参照)。

#### (8) セッション9: 閉会

上坂委員長から出席者らへの謝辞等が述べられ、閉会した。

(以上)

(参考資料)

添付1: 第 25 回大臣級会合 議事次第

添付2: 第 25 回大臣級会合 参加者一覧

添付3: 第 25 回大臣級会合 共同コミュニケ(英文)

添付4: 第 25 回大臣級会合 共同コミュニケ(和文(仮訳))

(FNCA25周年記念シンポジウム)

1. 開催日時：令和6年12月18日(水) 10:00～16:00
2. 開催場所：三田共用会議所 大会議室(ハイブリッド)
3. 主 催：内閣府原子力委員会
4. 参加国等：FNCA加盟国：オーストラリア、バングラデシュ、中国、インドネシア、日本、カザフスタン、マレーシア、モンゴル、フィリピン、タイ、ベトナム
5. 議 長：直井 洋介 原子力委員会 委員
6. 我が国の主な出席者：

上坂 充 原子力委員会 委員長  
直井 洋介 原子力委員会 委員  
岡田 往子 原子力委員会 委員  
玉田 正男 FNCA日本コーディネーター  
和田 智明 FNCA日本アドバイザー  
坪井 裕 FNCA日本アドバイザー  
各プロジェクトリーダー 他

7. 議事次第：添付5参照

8. 議事概要：

- (1)セッション1：開会

直井原子力委員会委員の開会宣言の後、上坂原子力委員会委員長が歓迎挨拶を述べた。25周年を迎えるFNCAの成果がアジア地域の持続的発展に貢献してきたことを確認し、カーボンニュートラル社会の早期実現やエネルギー需要の増加等を背景とし原子力技術の平和利用への期待が更に高まっている国際的情勢に触れながら、今回のシンポジウムを契機とし今後のFNCA事業の更なる発展を祈念する旨等を発言した。

- (2)セッション2：基調講演

和田アドバイザーが「FNCAの1/4世紀：加盟国によるこれまでの成果」をテーマに基調講演を行った。プロジェクトの変遷や、各プロジェクトが取り組んできた課題や成果を振り返りながら、最先端技術・情報へのアクセス機会の提供や人材育成支援、安全文化醸成、国際的研究ネットワーク構築等、FNCAの意義と果たしてきた役割を総括した。

続いて、玉田コーディネーターが「FNCA プロジェクトの現在の活動と今後への期待」をテーマに基調講演を行った。現行の8プロジェクトの研究内容や成果等を振り返りながら、FNCA の取組が引き続き加盟国へ社会的、経済的利益をもたらすことへの期待等を述べた。

### (3) セッション3: 各プロジェクトからの活動・成果の発表

全8プロジェクトのプロジェクトリーダーらが、各プロジェクトの代表的な成果を共有した。

#### 3-1: 放射線育種プロジェクト

議 長・発表者: 長谷 純宏 量子科学技術研究開発機構 (QST)

突然変異育種の基本的な考え方と主要作物への応用事例を紹介。世界の気候変動状況も勘案し、主要な品種の突然変異育種が持続可能な農業に果たす役割の重要性等を説明した。

#### 3-2: 放射線加工・高分子改質プロジェクト

議 長・発表者: 田口 光正 量子科学技術研究開発機構 (QST)

放射線加工や高分子改質の応用事例を紹介。放射線加工の農業、環境、医療の分野への貢献についてを説明した。

#### 3-3: 食品産地偽装防止プロジェクト

議 長・発表者: パトリシア・ガッド オーストラリア原子力科学技術機構 (ANSTO)

「核技術を利用した食品産地偽装との闘い」の現状とこれまでの成果を説明した。

#### 3-4: 気候変動(森林土壤炭素放出評価)プロジェクト

議 長・発表者: 永井 晴康 日本原子力研究開発機構 (JAEA)

森林土壤からの炭素排出量の評価について発表。地球の陸地の3の1を占めるアジアがこの研究を実施する意義や、測定・分析手法等を説明した。

#### 3-5: 放射線治療プロジェクト

議 長: 若月 優 量子科学技術研究開発機構 (QST)

発表者: 加藤 真吾 埼玉医科大学

世界のがん統計、FNCA プロジェクトの歴史、治療プロトコルの様々ながん種への応用例、国際協力の例など、放射線腫瘍学に関する包括的な見解を説明。また、FNCA プロジェクトによって強力なネットワークが確立されたことを紹介した。

### 3-6: 研究炉利用プロジェクト

議長・発表者: 海老原 充 東京都立大学

発表者: 山口 淳史 日本原子力研究開発機構 (JAEA)

研究炉利用事業の歴史と成果を紹介。環境モニタリング等様々な分野への貢献状況を説明した。

### 3-7: 核セキュリティ・保障措置プロジェクト

議長・発表者: 堀 雅人 日本原子力研究開発機構 (JAEA)

アジア地域における核セキュリティと核保障措置の能力構築に本プロジェクトが果たした役割等を説明、原子力の平和利用の重要性を改めて強調した。

### 3-8: 放射線安全・廃棄物管理プロジェクト

議長・発表者: 小佐古 敏壮 東京大学(名誉教授)

本プロジェクトの成果物である様々な報告書の作成やそれに至る多国間交流の経緯等を紹介した。

## (4) セッション4:閉会

一日の発表と議論を総括し、直井委員が閉会挨拶を述べた。各プロジェクトの 25 年間の成果を振り返りながら、FNCA が原子力技術の平和的がアジア地域の持続的発展に資する役割の重要性と、各国が引き続き FNCA の活動に尽力していくことを確認し、閉会した。

(以上)

## (参考資料)

### 添付5: FNCA25 周年記念シンポジウム 議事次第

**アジア原子力協力フォーラム（FNCA）**  
**第25回 大臣級会合（MLM）**  
**アジェンダ【最終版】**

日 時：2024年12月18日（水）17:00-18:00  
 12月19日（木）10:30-17:00

場 所：三田共用会議所 国際会議室（+Webex）

主 催：内閣府・原子力委員会

会議議長：上坂 充 原子力委員会委員長

使用言語：英 語

12月18日（水）

17:00-17:10

集合写真

【プレス公開】

17:10-17:30

セッション1：開会セッション（20分）

【プレス公開】

議長：上坂 充 原子力委員会委員長

- 開会宣言（上坂 充 原子力委員会委員長）
- 歓迎の挨拶（城内 実 科学技術政策担当大臣）
- 参加者自己紹介
- アジェンダ採択

17:30-18:00

セッション2：基調講演（30分）

【プレス公開】

議長：上坂 充 原子力委員会委員長

「原子力エネルギー：アジアにおける経済成長と環境保護への道」

OECD/NEA マグウッド事務局長 <オンライン>

18:00-

レセプション（三田ルーム）

12月19日（木）

10:30-11:30

セッション3：円卓会議（60分）

【プレス公開】

議長：上坂 充 原子力委員会委員長

テーマ：「FNCA：これまでの25年と今後の活動」

リード・スピーチ

- モンゴル
- タイ
- インドネシア

議論

11:30-12:00

セッション4：FNCA賞授賞式及び記念講演（30分）

【プレス公開】

議長：フィリピン

12:00-13:00

< 昼食休憩 > (60分)

13:00-14:00	セッション 5: 国別状況報告 I (60 分) 議 長: カザフスタン	【プレス公開】
	1. バングラデッシュ、2. 中国、3. インドネシア、4. 日本、5. 韓国	
14:00-15:10	セッション 6: 国別状況報告 II (70 分) 議 長: バングラデッシュ	【プレス公開】
	1. カザフスタン、2. マレーシア、3. モンゴル、4. フィリピン、5. タイ、 6. ベトナム	
15:10-15:30	＜ コーヒー・ブレーク ＞ (20 分)	
15:30-16:20	セッション 7: FNCA の活動報告と議論 (50 分) 議 長: 中 国	
	1) 第 24 回コーディネーター会合 : プロジェクトの活動状況 玉田 正男 FNCA 日本コーディネーター	
	2) 2024 年スタディ・パネル (SP2024) 報告 直井 洋介 原子力委員会委員	
	3) 25 周年記念イベント報告	
	4) シンガポールの新規加盟について	
	5) 2025 年の会合スケジュール a. 第 25 回 コーディネーター会合 b. 上級行政官会合 c. 第 26 回 大臣級会合	
16:20-16:50	セッション 8: ジョイント・コミュニケに関する議論 (30 分) 議 長: ベトナム	
16:50-17:00	セッション 9: 閉会セッション (10 分) 議 長: 上坂 充 原子力委員会委員長	
	閉会の挨拶 (上坂 充 原子力委員会委員長)	
17:00	散 会	

**Forum for Nuclear Cooperation in Asia (FNCA)**  
**25th Ministerial Level Meeting**  
**List of the Participants**

添付 2

※ online participant

No.	Country	Name	Affiliation
1	Bangladesh	※Dr. Md. Idris Ali	Director International Affairs Division & NLO to the IAEA Bangladesh Atomic Energy Commission.
2	China	Ms. XIAO Lili	Senior Project Official Department of International Cooperation China Atomic Energy Authority (CAEA)
3	China	Mr. TAN Junlong	Senior Engineer China Atomic Energy Authority (CAEA)
4	China	※Mr. WANG Yibo	Chief Staff Department of International Cooperation China Nuclear Energy Association (CNEA)
5	Indonesia	Mr. Totti Tjiptosumirat	Executive Director of International Nuclear Agency Indonesia, National Research and Innovation Agency(BRIN)
6	Kazakhstan	Prof. Erlan Batyrbekov	Director General National Nuclear Center of the Republic of Kazakhstan
7	Kazakhstan	Dr. Vladimir Vityuk	Deputy Director General for Science National Nuclear Center of the Republic of Kazakhstan
8	Korea	※Mr. Changsun LEE	Director General Nuclear, Future Energy, Convergence and Public mission R&D policy Bureau Ministry of Science and ICT (MSIT)
9	Korea	※Mr. Jaepyo HONG	Deputy Director Nuclear, Future Energy, Convergence and Public mission R&D policy Bureau Ministry of Science and ICT (MSIT)
10	Korea	※Mr. Dong Yun LEE	Division Head Global Cooperation Center Korea Nuclear International Cooperation Foundation (KONICOF)
11	Korea	※Ms. Jisoo HAN	Researcher Global Cooperation Center Korea Nuclear International Cooperation Foundation (KONICOF)

No.	Country	Name	Affiliation
12	Malaysia	Dr. Muhammad Rawi Bin Mohamed Zin	Deputy Director General,(R&D Program) Malaysian Nuclear Agency (Nuklear Malaysia)
13	Mongolia	Mr. SHANDAS Bud	Second secretary, Embassy of Mongolia
14	Mongolia	Mr. Chadraabal MAVAG	Head, Nuclear Technology Department, Executive Office of the Nuclear Energy Commission (NEC) of the Government of Mongolia
15	Philippines	Mr. Neil Raymund Diaz Guillermo	Supervising Science Research Specialist Section Head of Applied Physics Research Section Atomic Research Division DOST-Philippine Nuclear Research Institute(PNRI)
16	Thailand	Mr. Suphachai Jaismut	Vice Minister for Higher Education, Science, Research and Innovation
17	Thailand	Dr. Thawatchai Onjun	Executive Director, Thailand Institute of Nuclear Technology (Public Organization)
18	Thailand	Ms. Chatchawan Mansaithong	International Cooperation Officer Thailand Institute of Nuclear Technology (Public Organization)
19	Thailand	Mr. Natthawuth Wongsupa	Plan and Policy Analyst, Practitioner level, Ministry of Higher Education, Science, Research and Innovation
20	Vietnam	Dr. CAO Dong Vu	Director Dalat Nuclear Research Institute Vietnam Atomic Energy Institute (VINATOM)
21	Vietnam	Ms. VU Thi Tu Quyen	Deputy General Director Department of International Cooperation Ministry of Science and Technology
22	Vietnam	Ms. TRAN Ngoc Hoan	Deputy Director Department of International Cooperation Vietnam Atomic Energy Institute (VINATOM)
23	Philippines	Mr. Christopher C. Cabusora	Senior Science Research Specialist, Philippine Rice Research Institute
24	OECD/NEA	※Mr. William D. Magwood, IV	Director General, Nuclear Energy Agency

No.	Country	Name	Affiliation
25	OECD/NEA	※Mr. MUROYA Nobuhiro	Deputy Director-General for Management and Planning, Nuclear Energy Agency
26	Singapore	Mr. WONG Kang Jet	Chief Executive Officer, National Environment Agency
27	Singapore	Mr. SAY Symus	Executive Engineer National Environment Agency
28	Japan	Mr. KIUCHI Minoru	Minister, CAO
29	Japan	Ph.D. KAKITA Yasuyoshi	Director-General for Science, Technology and Innovation Policy
30	Japan	Dr. TAMADA Masao	FNCA Coordinator of Japan
31	Japan	Mr. WADA Tomoaki	FNCA Advisor of Japan
32	Japan	※Mr. TSUBOI Hiroshi	FNCA Advisor of Japan
33	Japan	Mr. KAWAHARA Taku	Director International Nuclear Cooperation Research and Development Bureau Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology (MEXT)
34	Japan	Dr. IKEJIRI Satoshi	Deputy Director International Nuclear and Fusion Energy Affairs Division Research and Development Bureau Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology (MEXT)
35	Japan	※Mr. AOYAMA Yuichi	Unit Chief International Nuclear and Fusion Energy Affairs Division Research and Development Bureau Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology (MEXT)
36	Japan	Mr. NAKAJIMA Shogo	Researcher International Nuclear and Fusion Energy Affairs Division Research and Development Bureau Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology (MEXT)

No.	Country	Name	Affiliation
37	Japan	Ms. NAKAHARA Risa	Administrative Researcher International Nuclear and Fusion Energy Affairs Division Research and Development Bureau Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology (MEXT)
38	Japan	Mr. NAGAI Tadaaki	Researcher International Nuclear and Fusion Energy Affairs Division Research and Development Bureau Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology (MEXT)
39	Japan	※Mr. KAJIHARA Yuma	Assistant Director International Nuclear Cooperation Division, Disarmament, Non-Proliferation and Science Department, Ministry of Foreign Affairs
40	Japan	Dr. UESAKA Mitsuru	Chairperson, JAEC
41	Japan	Mr. NAOI Yosuke	Commissioner, JAEC
42	Japan	Dr. OKADA Yukiko	Commissioner, JAEC
43	Japan	Mr. MORIMOTO Koichi	JAMSTEC
44	Japan	Dr. TOKUMASU Shinji	Deputy Director General for Science, Technology and Innovation Policy, Cabinet Office of Japan (CAO)
45	Japan	Mr. NAKAMURA Tomohide	Deputy-Director Office for Atomic Energy Policy Secretariat of the Atomic Energy Commission Cabinet Office of Japan (CAO)
46	Japan	Ms. OTAGIRI Kayoko	Chief of International Affairs Section Secretariat of the Atomic Energy Commission Cabinet Office of Japan (CAO)
47	Japan	Mr. YAMADA Katsumi	Technical Counsellor Office for Atomic Energy Policy Secretariat of the Atomic Energy Commission Cabinet Office of Japan (CAO)
48	Japan	Mr. TATEMATSU Shinya	Director, Bureau of Science, Technology and Innovation Cabinet Office of Japan (CAO)

Forum for Nuclear Cooperation in Asia (FNCA)  
Joint Communique on the New Direction of the FNCA  
adopted at the 25th Ministerial Level Meeting (MLM25),  
December 19, 2024

We, the heads of delegation of countries participating in the FNCA: the People's Republic of Bangladesh, the People's Republic of China, the Republic of Indonesia, Japan, the Republic of Kazakhstan, the Republic of Korea, Malaysia, Mongolia, the Republic of the Philippines, the Kingdom of Thailand, and the Socialist Republic of Viet Nam,

Recalling that the FNCA's objective is to promote social and economic development through active regional partnerships for the peaceful and safe utilization of nuclear technology, and that research and development (R&D), knowledge, information sharing, and capacity building are, inter alia, the main roles and activities of the FNCA, which will lead to social and economic well-being of the member countries,

Acknowledging the potential of radiation technology and related FNCA projects in areas such as sustainable agricultural development; food safety; eco-friendly industrial development, radiation therapy, mitigation of the effects of climate change; and conservation of natural ecosystems,

Noting the potential value of nuclear energy, which can contribute to energy mix solutions, and to reducing and/or avoiding emissions of greenhouse gas,

Acknowledging the importance of securing required human resources in the nuclear science and technology fields, and radiation utilization field and the importance of succession of knowledge, including through promoting gender balance and gender equity, as well as attracting young generation/ diverse professionals,

Commending the winners of the FNCA Award, which was resumed this year, for their outstanding achievements,

Noting the issues and the need for improving them in production and distribution of medical radioisotopes in the member countries, acknowledged through the discussion on "Production of Radioisotopes for Medical Use and Demand" at March 2024 Study Panel,

Sharing the significance of the FNCA, which celebrated the 25<sup>th</sup> anniversary of its founding, that

the activities have been uniquely demonstrating great achievements for improving “Food and Human Health” through the discussion in this Ministerial Level Meeting, and recognizing that member countries have collaborated on its commemorative events,

Welcoming Singapore’s formal participation in FNCA as a new member country and in FNCA project activities in 2025,

Noting the need for reinforcing cooperation among the member countries in the related fields, acknowledged through the discussion on “Outlook on Next Generation Reactors Including SMRs” at Study Panel in June, 2023, and on “Design Concepts and Users Requirements of Next Generation Reactors including SMRs” at the online Seminar in October, 2024,

Recognizing the importance of cooperation with nuclear international/ intergovernmental organizations such as the IAEA, the OECD/NEA, IFNEC and other relevant national/ international organizations, and having agreed to put in perspective potential cooperation/ collaboration with such bodies,

We have decided to work towards:

1. Sustainable agriculture development and food safety, environmental protection, medical care and human health, nuclear safety and security culture

Continue to expand our activities in the application fields of nuclear science and technology and radiation utilization related to the development of sustainable agriculture and food safety, environmental protection, medicine, and the development of infrastructure for nuclear safety and conservation culture. In doing so, we will promote existing R&D fields, and with an eye to the future, proactively adopt R&D fields that are of broad interest to member countries and that contribute to sustainable development.

2. Cooperation in Human Resource Development (HRD) of the nuclear science and technology field, and radiation use

Depending on the needs and circumstances of each member country, we will hold face-to-face seminars and workshops, as well as webinars and online workshops, on initiatives related to systematic personnel exchange and enhancement of human resources infrastructure, so that we can promote information exchange. Diversity in participation, leadership and representation in FNCA projects and activities is important. We will seek to achieve equality in the nuclear science

and technology field, including through promoting gender balance and age diversity in the workforces.

### 3. Spread of the R&D results

Encourage the member countries to facilitate uses of the outcomes of projects on mutation breeding, radiation processing, research reactor utilization, isotope production, neutron activation analysis, and those related to nuclear applications, by end-users, taking into account the possibility of their commercialization, which can more effectively contribute to the member countries' socio-economic well-being.

### 4. Information sharing on next generation reactors including SMRs

In accordance with the discussion on "The Outlook of Next Generation Reactor including SMRs, at the 2023 Study Panel, promote information exchange with related issues, and in order to share development status on new type reactors among member countries, put importance on information exchange about potentialities and outlook on technical, safety, and economic aspects.

### 5. Other areas and activities to be promoted

Promote the activities prioritized by the member countries related to the applications of nuclear science and technology, particularly in sustainable agriculture development and food security, environment protection, medical care and human health, and infrastructure development for nuclear safety and security culture, by accelerating existing R&D areas and also by adopting possible future R&D areas of a wide spectrum of interests from the member countries to support their sustainable development.

### 6. Expansion of public communication and public relations functions

Continuously work on building up public trust on nuclear science and technology in the member countries and the Asian region, and endeavours to expand public relations functions through FNCA website and open lectures held in the member countries.

### 7. Enhancement of relationship with international/ intergovernmental organizations

Make efforts to further reinforce the relationships with relevant international/ intergovernmental organizations, including the IAEA, the OECD/NEA and IFNEC, in the areas where synergy effects

can be expected between FNCA activities and theirs.

For example, explore a future collaboration between FNCA and the IAEA, which launched “Rays of Hope,” expecting that the radiation therapy protocols established by the FNCA project can be widely utilized in the framework of “Rays of Hope.”

アジア原子力協力フォーラム(FNCA)  
第 25 回大臣級会合  
FNCA の活動方針に関する共同コミュニケ【仮訳】  
2024 年 12 月 19 日(於、東京)採択

我々、FNCA 参加国であるバングラデシュ人民共和国、中華人民共和国、インドネシア共和国、日本、カザフスタン共和国、大韓民国、マレーシア、モンゴル国、フィリピン共和国、タイ王国及びベトナム社会主義共和国の代表は、

積極的な地域のパートナーシップを通じて、原子力技術の平和的で安全な利用を進め、地域の社会的・経済的発展を促進するとともに、加盟国の社会的・経済的充実に繋がる研究開発、知識と情報の共有及び能力の構築が、とりわけ FNCA の主要な役割と活動目的であることを想起し、

持続可能な農業発展、食品安全、環境に配慮した工業開発、放射線治療、気候変動への影響軽減、自然生態系保護などの分野における放射線利用や関連する FNCA のプロジェクトの価値を認め、

原子力エネルギーには潜在的価値があり、エネルギー・ミックスに関する解決策や、温室効果ガスの排出削減及び/又は回避に寄与する可能性があることに注目し、

原子力科学技術分野及び放射線利用分野における必要な人材確保の重要性、ジエンダーバランス及びジエンダー平等を促進すること並びに若年層/多様な専門家等を惹きつけることを通じて知識を継承することの重要性を認識し、

今年、再開された FNCA 賞受賞者らの際立った功績を称え、

2024 スタディ・パネルにおける「医療用放射性同位元素(RI)の製造と需要」の討議を通じて再認識された、加盟国における医療用放射性同位元素の製造及び配布における課題と改善の必要性を認め、

大臣級会合での議論を通じて、創設 25 周年を迎えた FNCA が、加盟国との「食と健康」の向上に貢献してきたことの意義を共有し、また、加盟国が協力して記念行事を開催したことと確認し、

シンガポールが FNCA に正式に加盟国となったこと及び同国が 2025 年から FNCA プロジェクト活動に参加することを歓迎し、

2023 年 6 月のスタディ・パネル(SP)における「SMR を含む次世代炉の展望」及び 2024 年 10 月の次世代炉オンライン・セミナー「SMR を含む次世代炉の設計コンセプトとユーザー

要求」に関する議論を通して再認識された、当該分野における加盟国間の連携強化の必要性を認め、

FNCA と、IAEA、OECD/NEA、IFNEC等の原子力関連国際機関・政府間機関との連携の重要性を認識し、これらの機関との連携/協働の可能性を視野に入れることに合意し、

次のことに取り組むことを決定した。

#### 1. 持続可能な農業の発展と食品安全、環境保護、医療と健康、及び原子力安全・セキュリティ文化

現在進めているプロジェクトを継続・拡大させて、持続可能な農業の発展と食品安全、環境保護、アジア地域における放射線を利用した緩和治療を含むがん治療への取組、及び原子力安全・セキュリティ文化のための基盤開発に関連する原子力科学・技術、放射線利用の応用分野における活動を引き続き行う。実行に際し、既存の研究開発分野を促進するとともに、将来を見据え、加盟国が幅広く関心を持ち、持続可能な発展に寄与する研究開発の分野を先取りして採択する。

#### 2. 原子力科学・技術分野と放射線利用における人材育成の協力

各加盟国の必要性や状況に応じ、組織的な人材交流や人材基盤の充実に関する取組について、対面のセミナーやワークショップ、ウェビナー やオンラインワークショップ等を開催し、情報交換を促進させる。FNCA のプロジェクト及び活動への参加、リーダーシップ及び代表の多様性は重要である。加盟国は、労働力におけるジェンダーバランス及び世代の多様性の促進等を通じて、原子力科学・技術分野におけるジェンダー平等の達成を追求する。ジェンダーや年代など細分化されたデータを報告し実用に役立てる。

#### 3. 研究成果の普及

加盟国に対して、放射線育種、放射線加工、研究炉利用、アイソトープ製造及び中性子放射化分析等、原子力利用に関するプロジェクトの成果を、加盟国の社会的・経済的な充実に、より効果的な貢献ができる商業化の可能性も考慮しつつ、最終ユーザーによる利用を促進することを引き続き奨励する。

#### 4. SMR を含む次世代炉に関する情報共有

2023 年のスタディ・パネル(SP)「SMR を含む次世代炉の展望」及び 2024 年の次世代炉オンライン・セミナー「SMR を含む次世代炉の設計コンセプトとユーザー要求」に関する議論に基づき、加盟国は関連する課題の情報交換を促進する。また、次世代炉の開発状況を加盟国間で共有するため、技術面、安全面、経済面に関する可能性と展望についての情報交換を重視する。

## 5. その他促進すべき分野と活動

加盟国全般で優先度の高い、持続的農業の発展と食品安全、環境保護、医療、及び核の安全と保全文化のための基盤開発に関する原子力科学・技術の応用分野における活動を拡大する。これに際しては、現存の研究開発分野を促進するとともに、加盟国が幅広く関心を持ち、持続可能な発展に寄与する研究開発の将来的分野を積極的に採択する。

## 6. パブリック・コミュニケーション及び広報機能の拡大

加盟国及びアジア地域における原子力科学・技術に対する国民の信頼の構築に引き続き取り組む。また、FNCA のウェブサイトや加盟国で開催される公開講座等を通じた広報機能の拡大に努める。

## 7. 関連国際機関・政府間機関との協力強化

FNCA プロジェクトとのシナジー効果が期待できる分野について、IAEA、OECD/NEA、IFNEC 等の関係国際機関・政府間機関との連携を強化する。

例えば、FNCA の関連プロジェクトにより確立されるがん治療のプロトコルが、IAEA が立ち上げた「Rays of Hope」の枠組みにおいて十分に活用され得ることを期待し、「Rays of Hope」に関連した IAEA と FNCA との将来的な連携を模索する。

**アジア原子力協力フォーラム (FNCA)  
25周年記念シンポジウム  
アジェンダ【最終版】**

日 時：2024年12月18日（水）10:00-16:30  
 場 所：三田共用会議所 大会議室（+Webex）  
 主 催：内閣府・原子力委員会  
 会議議長：直井 洋介、原子力委員会委員  
 使用言語：英 語

全セッション プレス公開

10:00-10:20	セッション1：開会セッション 議 長：直井 洋介 原子力委員会委員 - 開会の挨拶 - 歓迎の挨拶 - 集合写真
10:20-11:00	セッション2：基調講演 議 長：直井 洋介 原子力委員会委員 - 基調講演1：「FNCAの1/4世紀：加盟国によるこれまでの成果」 和田 智明、FNCA日本アドバイザー - 基調講演2：「FNCAプロジェクトの現在の活動と今後への期待」 玉田 正男、FNCA日本コーディネーター
11:00-12:00	セッション3：各プロジェクトからの活動・成果の発表 議 長：直井 洋介、原子力委員会委員
11:00-11:30	サブ・セッション3-1：放射線育種プロジェクト 議 長・発表者：長谷 純宏、量子科学技術研究開発機構 (QST)
11:30-12:00	サブ・セッション3-2：放射線加工・高分子改質プロジェクト 議 長・発表者：田口 光正、量子科学技術研究開発機構 (QST)
12:00-13:00	＜ 昼食休憩 ＞
13:00-14:30	セッション3（続き）：各プロジェクトからの活動・成果の発表
13:00-13:30	サブ・セッション3-3：食品産地偽装防止プロジェクト 議 長・発表者：パトリシア・ガッド、オーストラリア原子力科学技術機構 (ANSTO)
13:30-14:00	サブ・セッション3-4：気候変動(森林土壤炭素放出評価)プロジェクト 議 長・発表者：永井 晴康、日本原子力研究開発機構 (JAEA)
14:00-14:30	サブ・セッション3-5：放射線治療プロジェクト 議 長：若月 優、量子科学技術研究開発機構 (QST) 発表者：加藤 真吾、埼玉医科大学

14:30-14:50	< 休憩 > (20分)
14:50-16:20	セッション3(続き)：各プロジェクトからの活動・成果の発表
14:50-15:20	サブ・セッション3-6：研究炉利用プロジェクト (30分) 議長・発表者：海老原 充、東京都立大学 発表者：山口 淳史、日本原子力研究開発機構 (JAEA)
15:20-15:50	サブ・セッション3-7：核セキュリティ・保障措置プロジェクト (30分) 議長・発表者：堀 雅人、日本原子力研究開発機構 (JAEA)
15:50-16:20	サブ・セッション3-8：放射線安全・廃棄物管理プロジェクト (30分) 議長・発表者：小佐古 敏壮、東京大学（名誉教授）
16:20-16:30	セッション4：閉会セッション 議長：直井 洋介、原子力委員会委員 -閉会の挨拶
16:30	散会